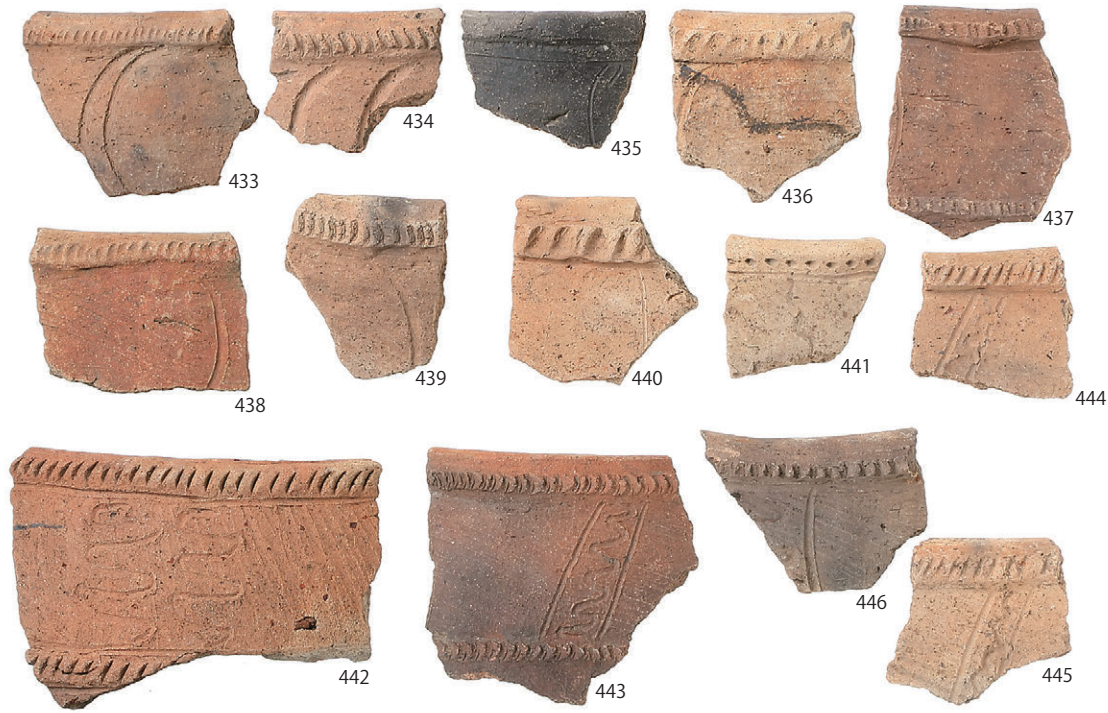




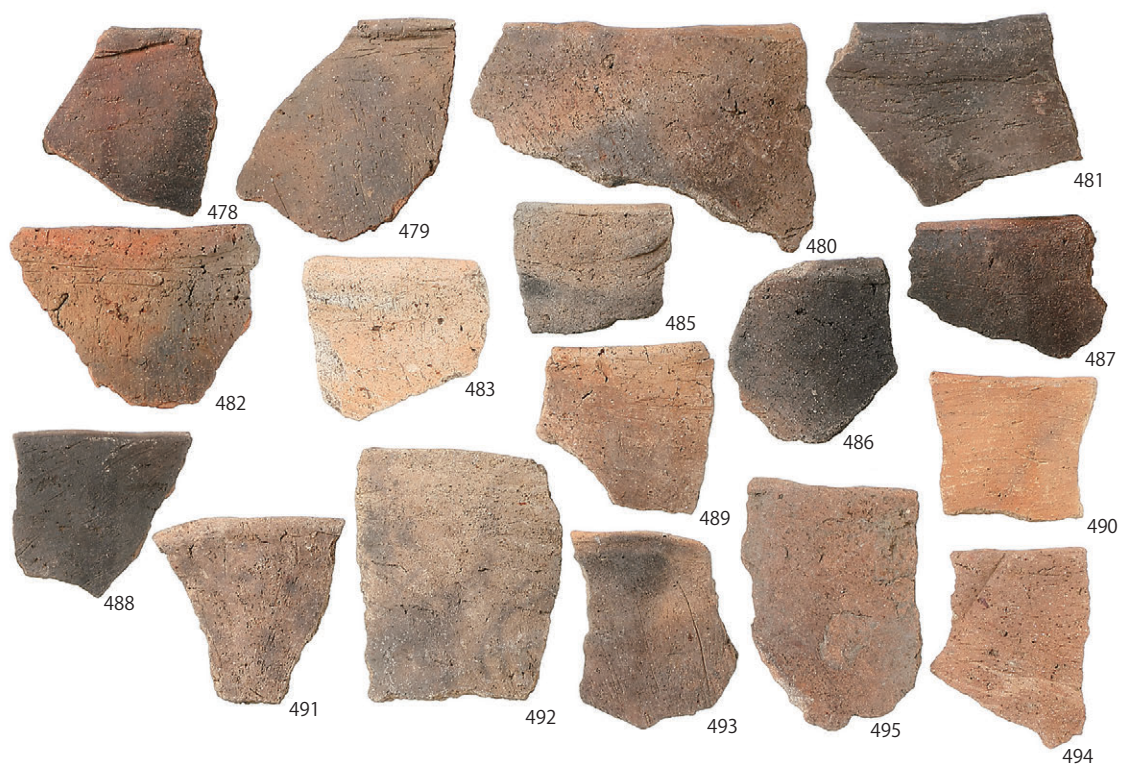
1 第 43 号住居跡 (29) (第 263 図)



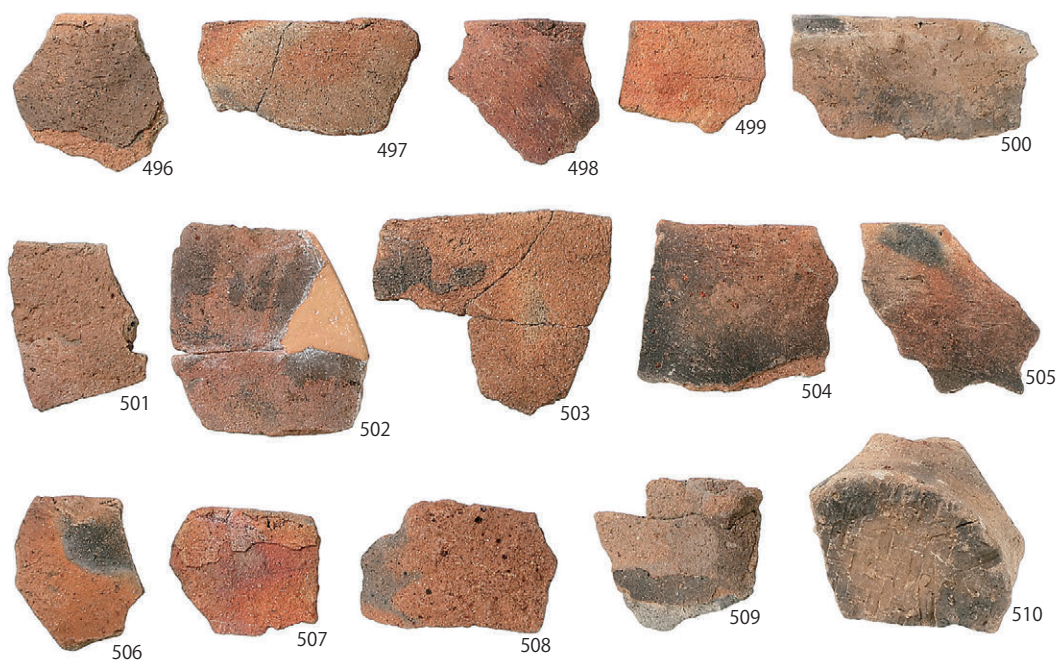
2 第 43 号住居跡 (30) (第 263・264 図)



1 第 43 号住居跡 (31) (第 264 図)



2 第 43 号住居跡 (32) (第 264・265 図)



1 第43号住居跡(33)(第265图)



2 第43号住居跡焼土上層(1)(第265・266图)



1 第 43 号住居跡焼土上層 (2) (第 266 図)



2 第 43 号住居跡焼土上層 (3) (第 266・267 図)



1 第43号住居跡焼土上層（4）（第267図）



2 第43号住居跡焼土上層（5）（第267・268図）



1 第 43 号住居跡焼土上層（6）（第 268 図）



2 第 43 号住居跡焼土上層（7）（第 268・269 図）



1 第 43 号住居跡焼土上層 (8) (第 269 图)



2 第 43 号住居跡焼土上層 (9) (第 269・270 图)



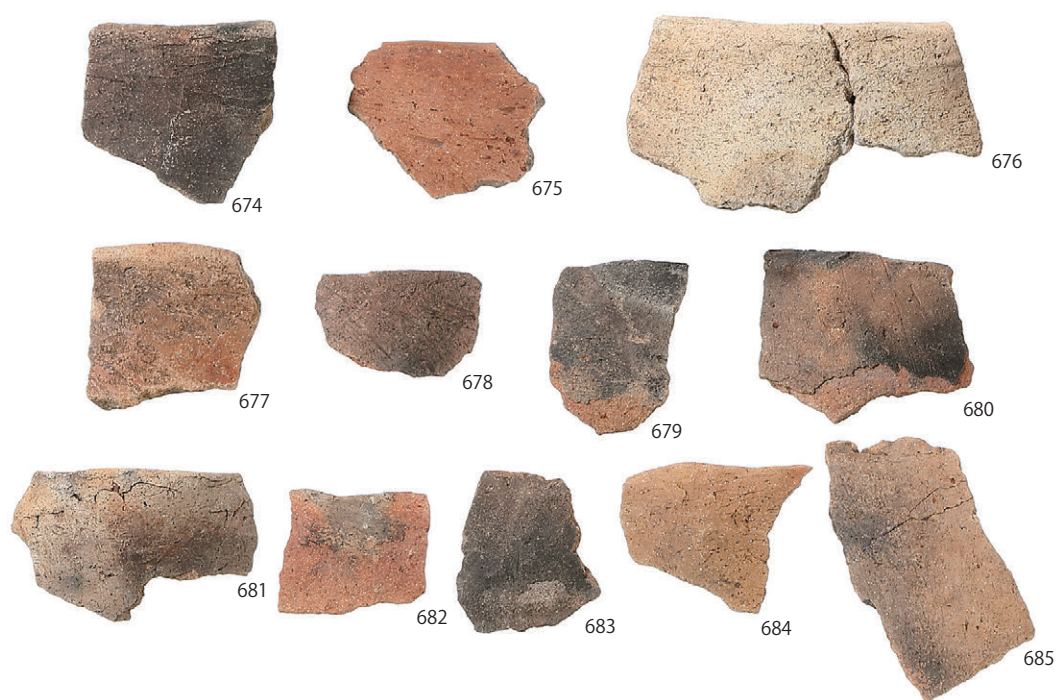
1 第43号住居跡焼土上層(10)(第270图)



2 第43号住居跡焼土上層(11)(第270・271图)



1 第 43 号住居跡焼土上層 (12) (第 271 図)



2 第 43 号住居跡焼土上層 (13) (第 272 図)



1 第43号住居跡床面烧土 (第272图)



2 第44号住居跡 (1) (第272・273图)



1 第 44 号住居跡 (2) (第 273 図)



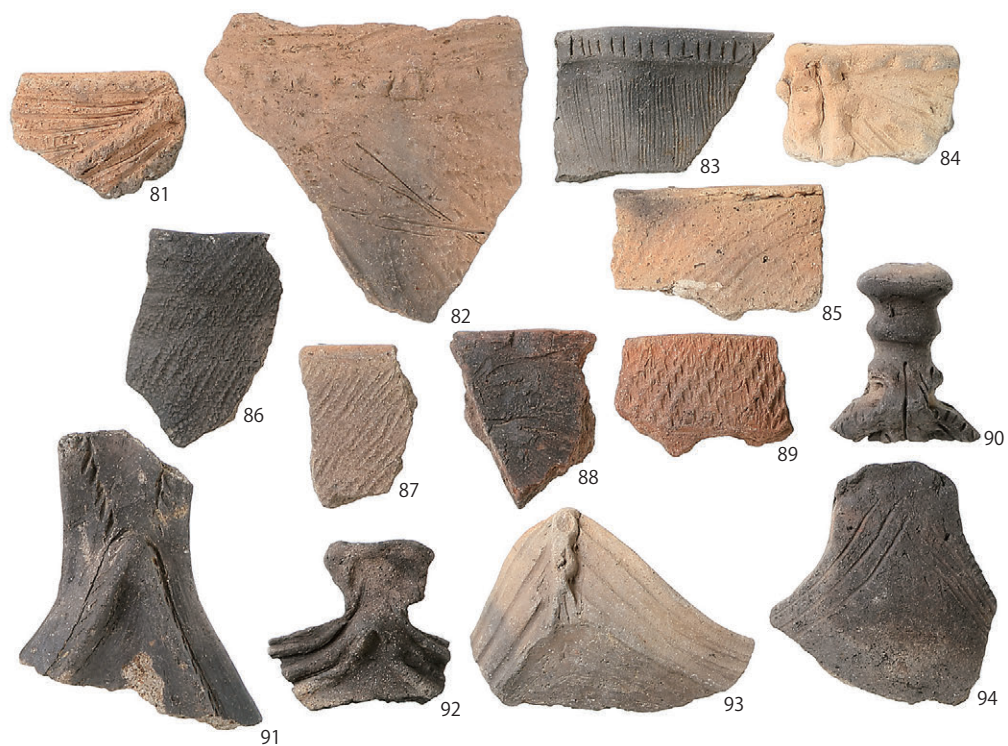
2 第 44 号住居跡 (3) (第 273・274 図)



1 第 44 号住居跡（4）（第 274 図）



2 第 44 号住居跡（5）（第 274・275 図）



1 第 44 号住居跡 (6) (第 275 図)



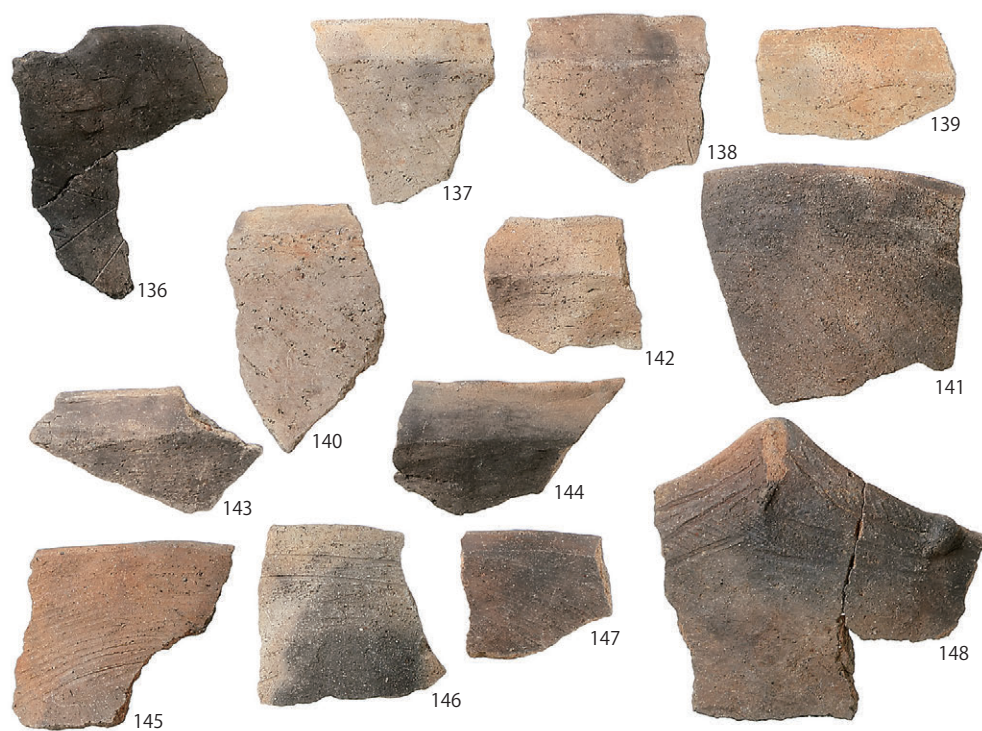
2 第 44 号住居跡 (7) (第 275・276 図)



1 第 44 号住居跡（8）（第 276 図）



2 第 44 号住居跡（9）（第 276・277 図）



1 第 44 号住居跡 (10) (第 277 図)



2 第 44 号住居跡 (11) (第 277・278 図)



1 第 44 号住居跡 (12) (第 278 図)



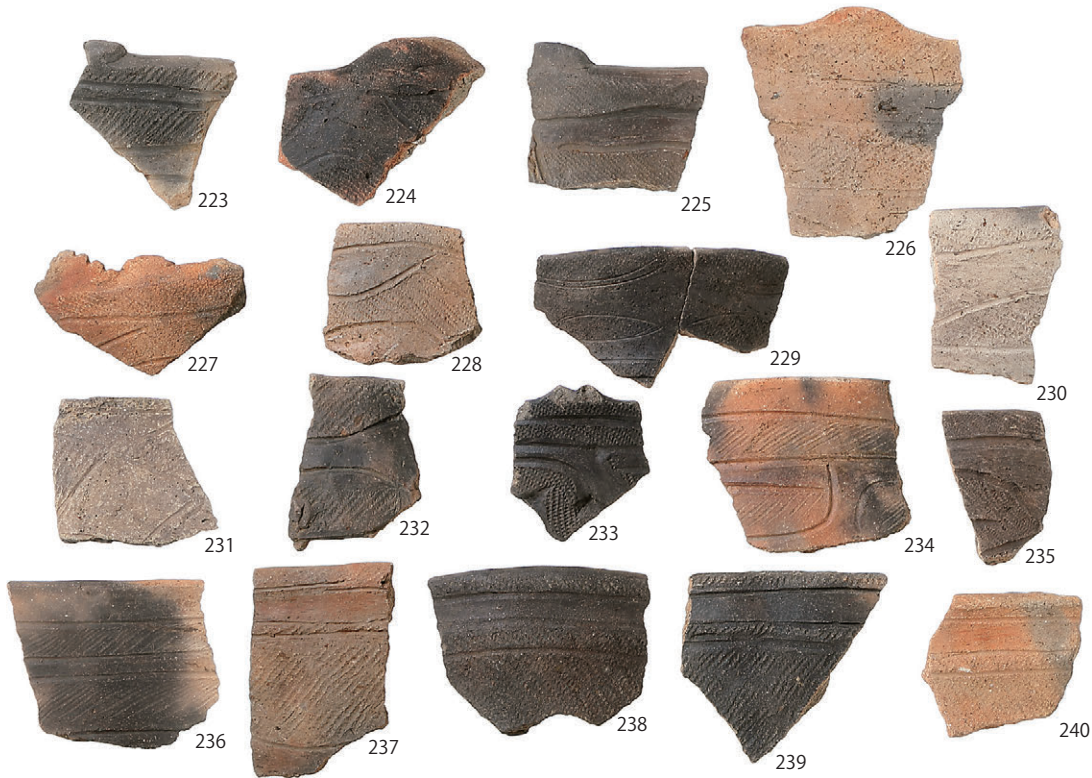
2 第 44 号住居跡 (13) (第 278・279 図)



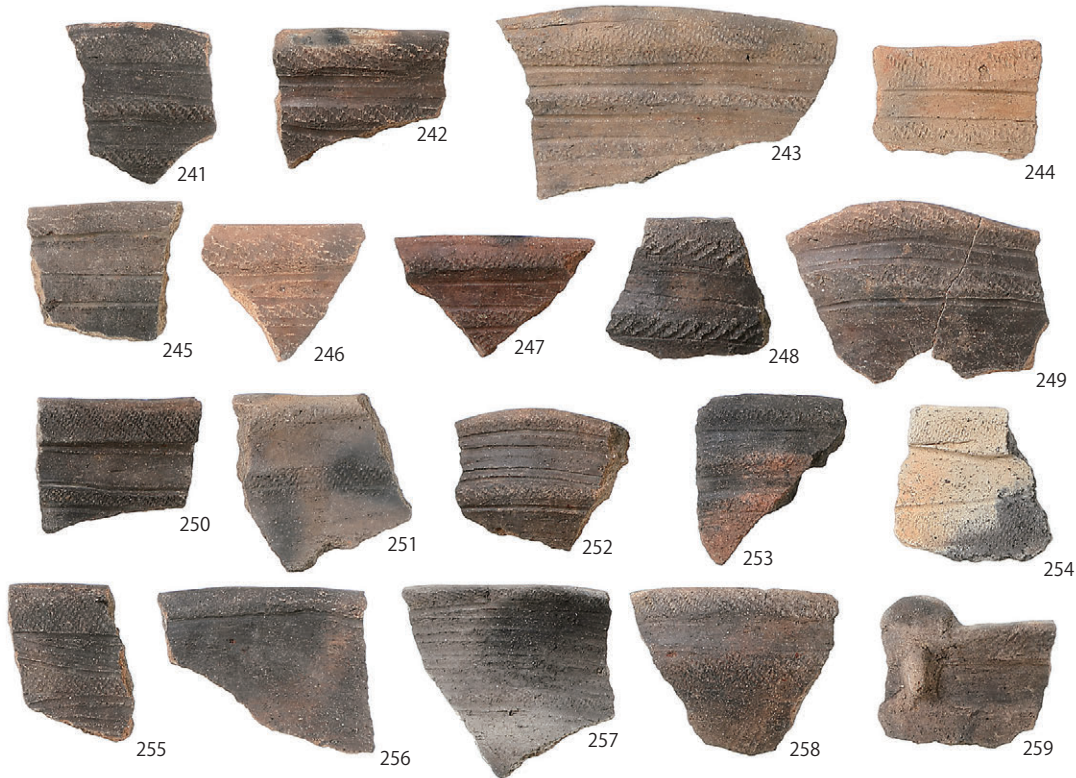
1 第 44 号住居跡 (14) (第 279 図)



2 第 44 号住居跡 (15) (第 279・280 図)



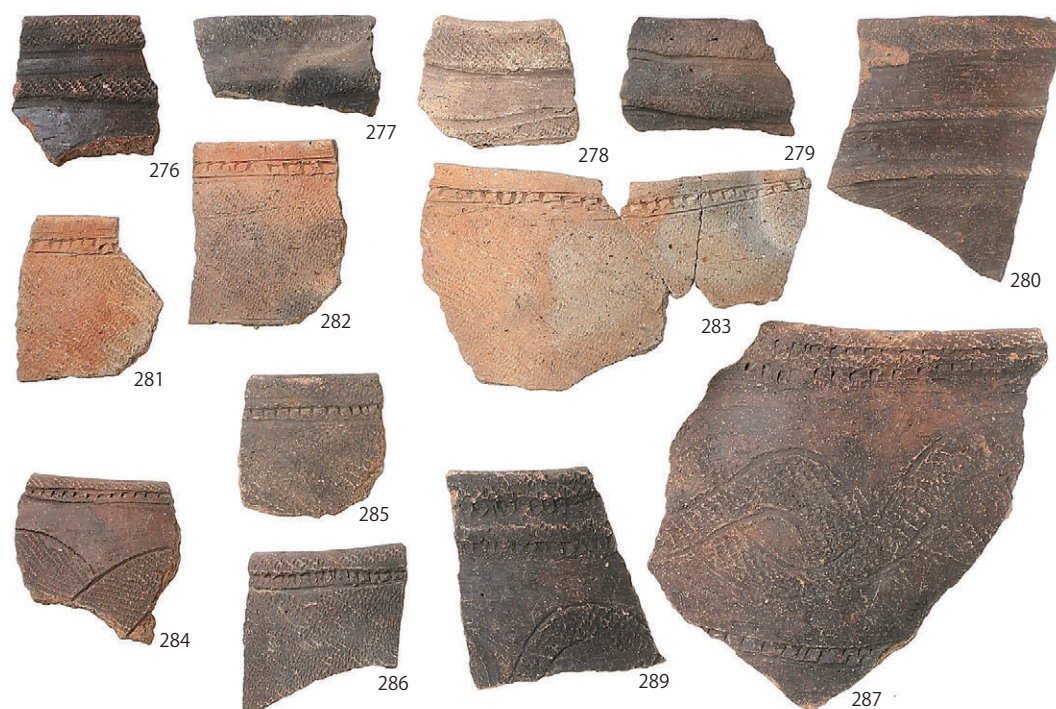
1 第 44 号住居跡 (16) (第 280 図)



2 第 44 号住居跡 (17) (第 280・281 図)



1 第 44 号住居跡 (18) (第 281 図)



2 第 44 号住居跡 (19) (第 281・282 図)



1 第 44 号住居跡 (20) (第 282 図)



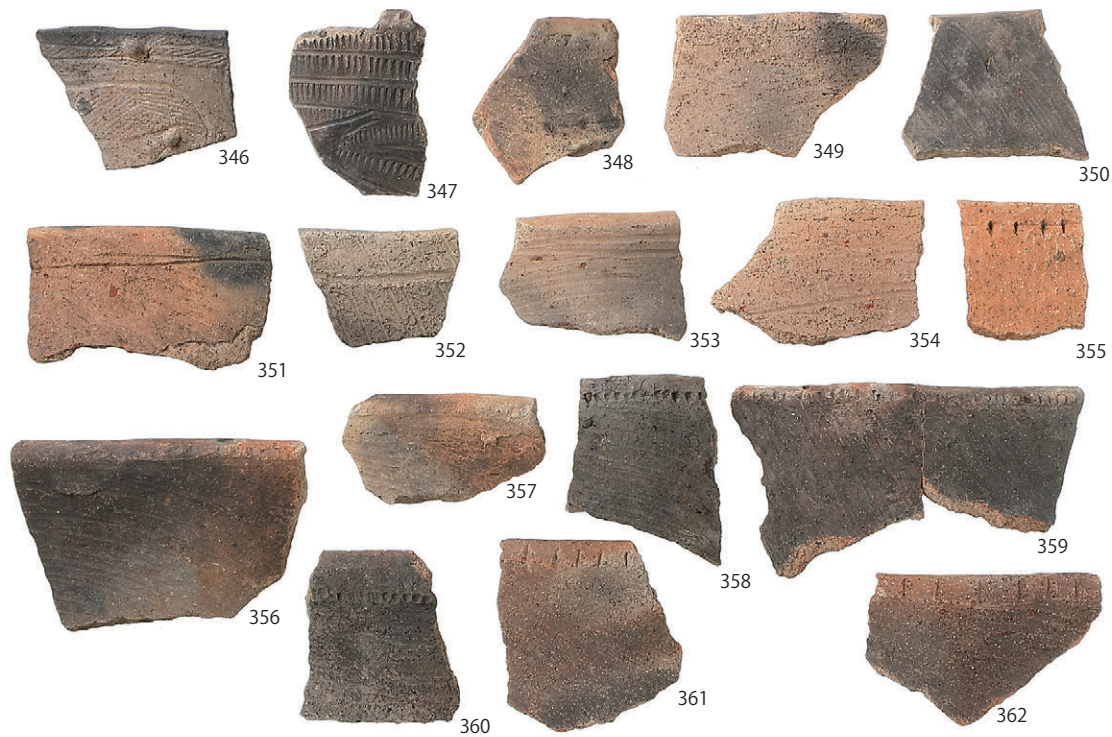
2 第 44 号住居跡 (21) (第 282・283 図)



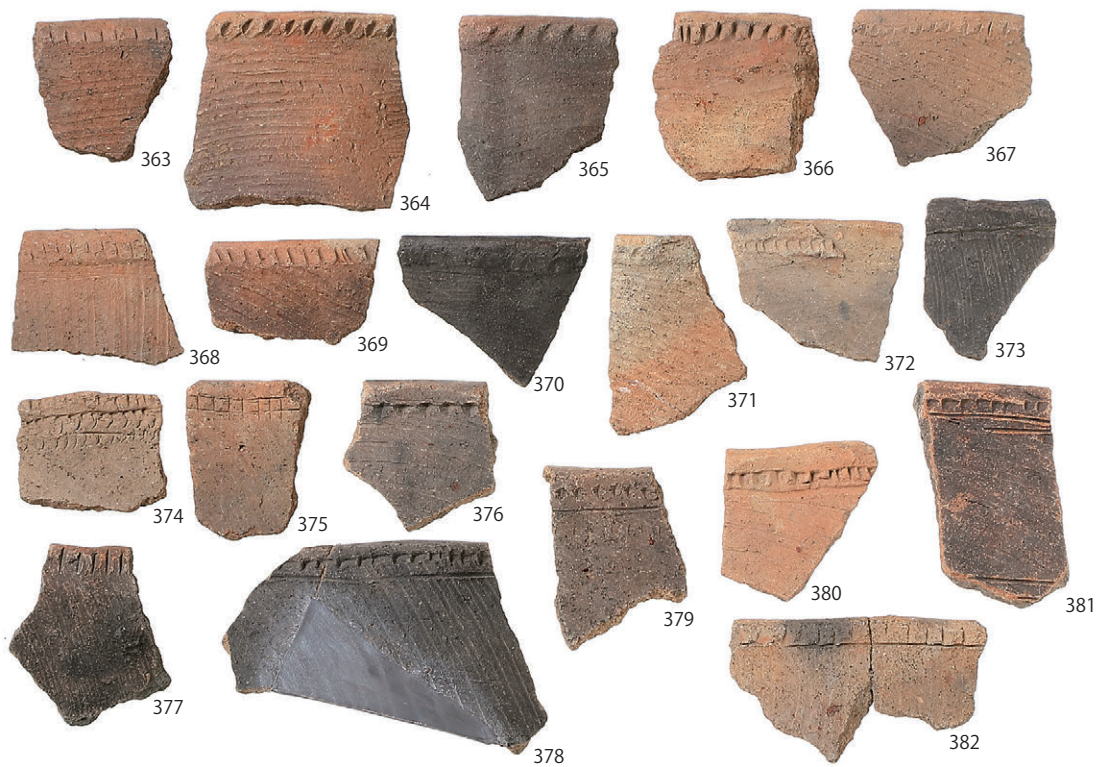
1 第 44 号住居跡 (22) (第 283 図)



2 第 44 号住居跡 (23) (第 283・284 図)



1 第44号住居跡(24)(第284图)



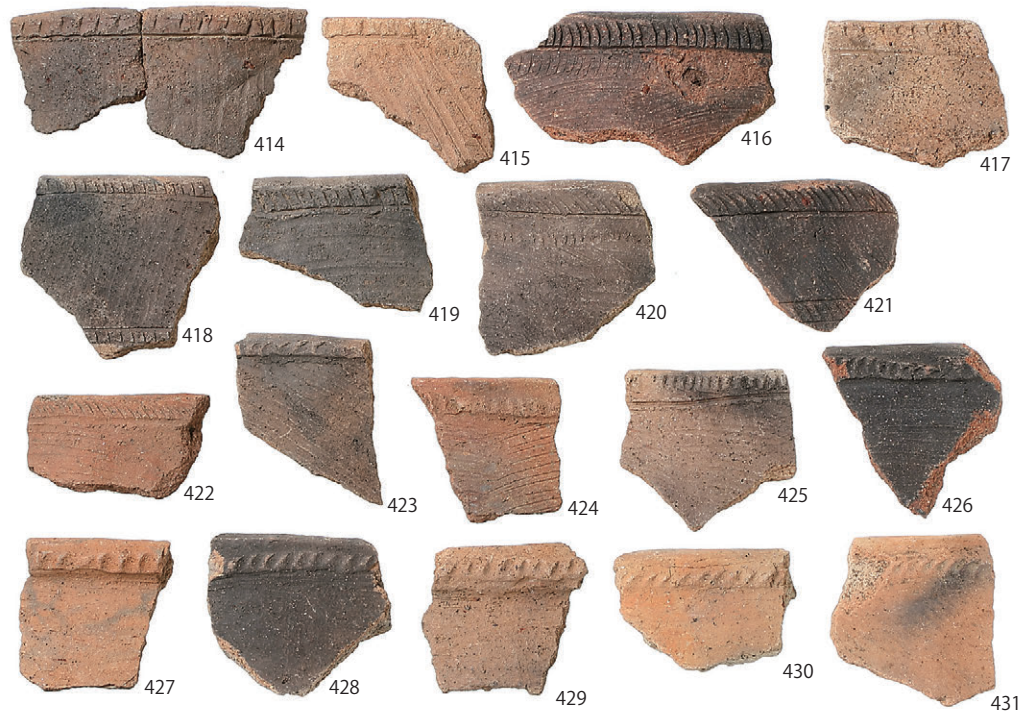
2 第44号住居跡(25)(第284・285图)



1 第 44 号住居跡 (26) (第 285 図)



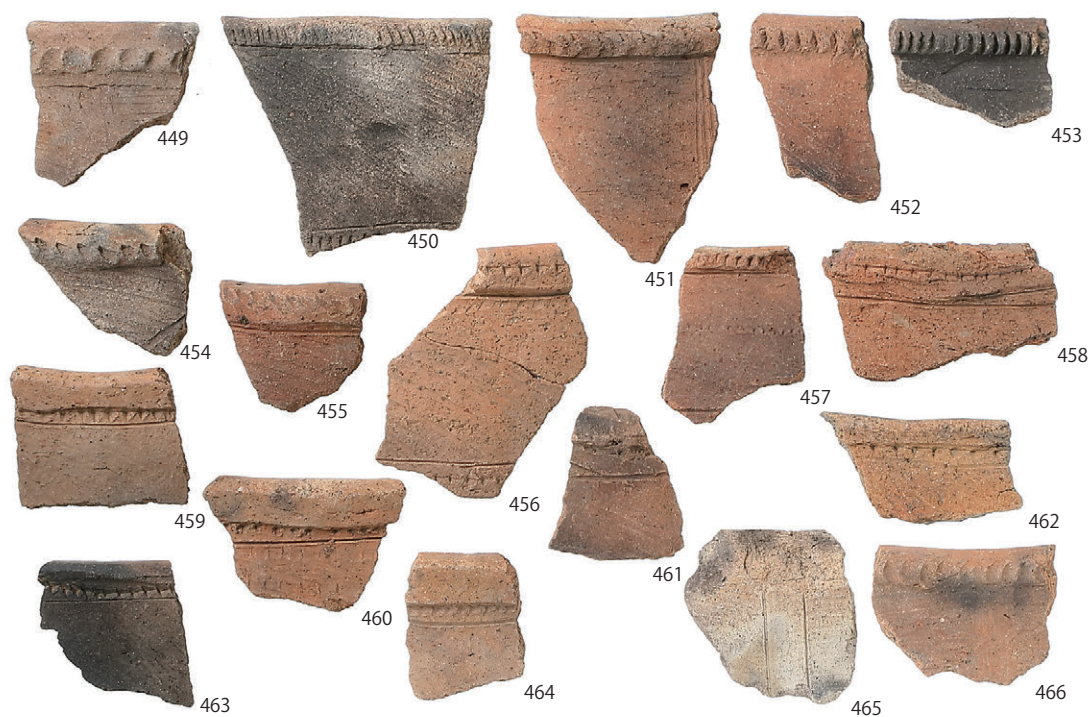
2 第 44 号住居跡 (27) (第 285・286 図)



1 第44号住居跡(28)(第286图)



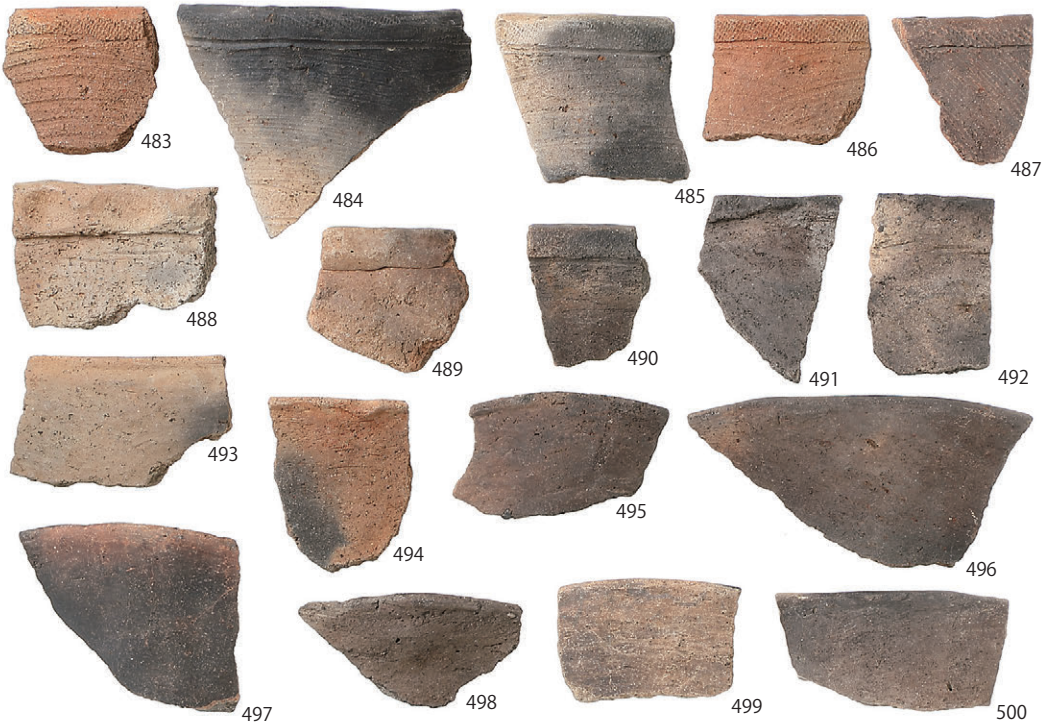
2 第44号住居跡(29)(第286・287图)



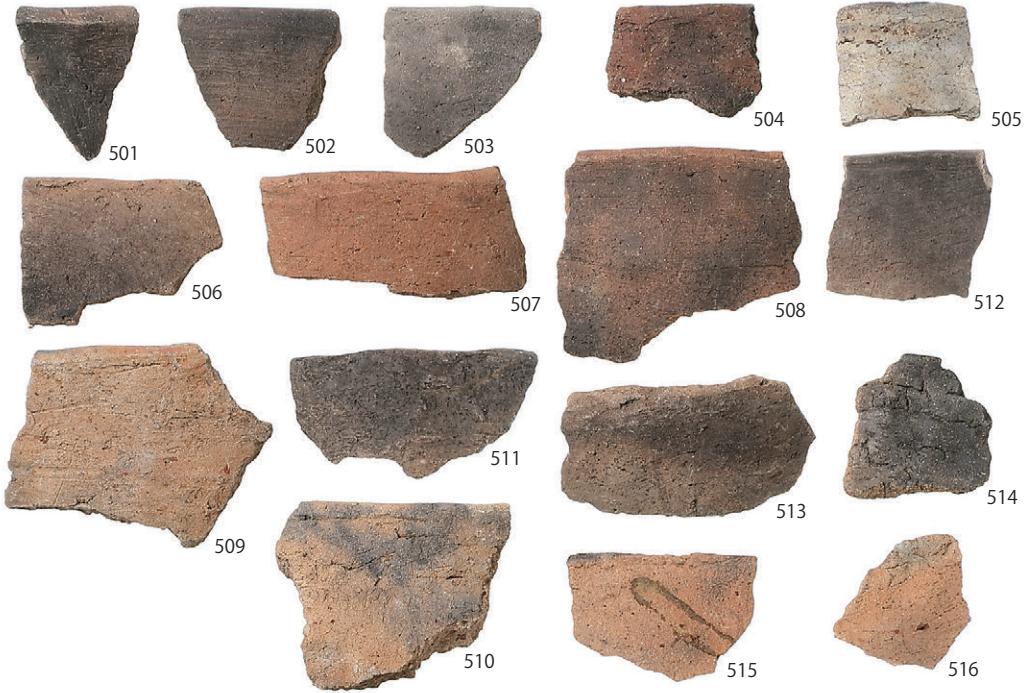
1 第 44 号住居跡 (30) (第 287 図)



2 第 44 号住居跡 (31) (第 287・288 図)



1 第 44 号住居跡 (32) (第 288 図)



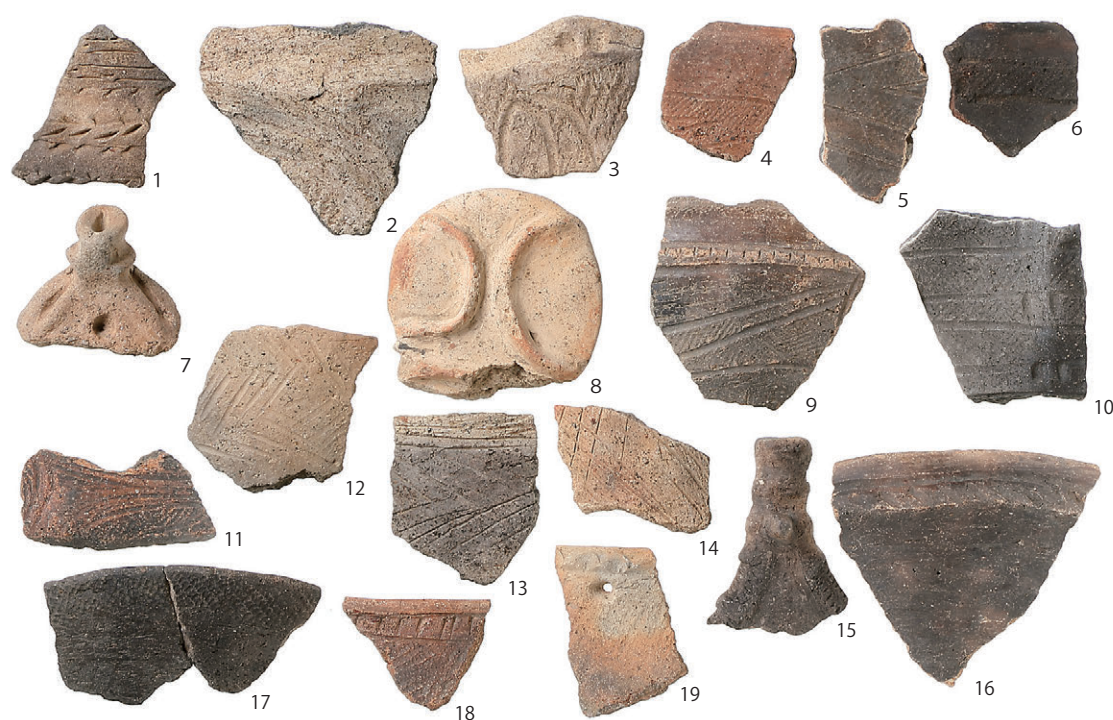
2 第 44 号住居跡 (33) (第 288 図)



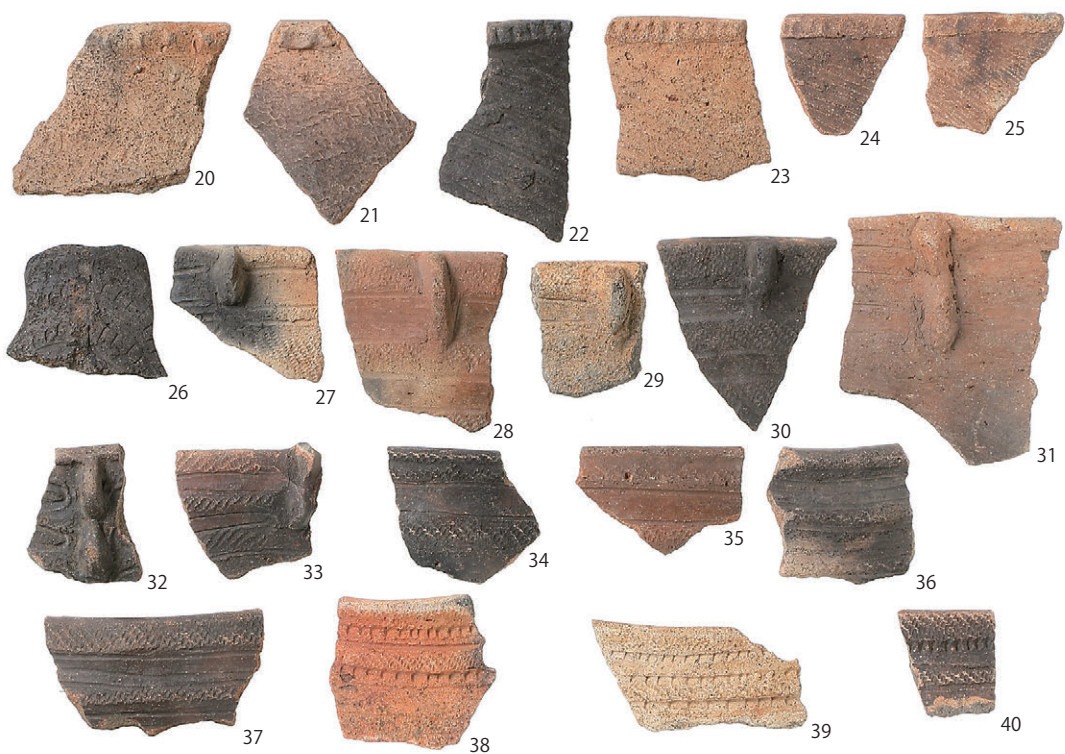
1 第 44 号住居跡焼土上層 (1) (第 289 図)



2 第 44 号住居跡焼土上層 (2) (第 289 図)



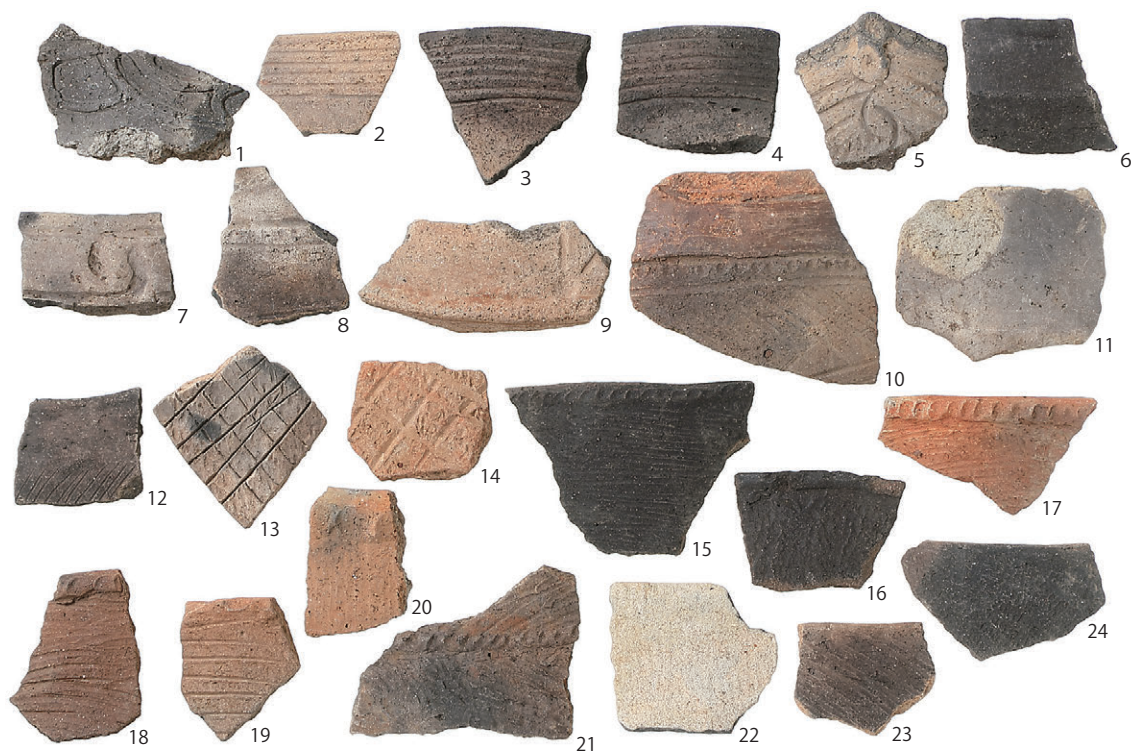
1 第 45 号住居跡（1）（第 289・290 図）



2 第 45 号住居跡（2）（第 290 図）



1 第 45 号住居跡 (3) (第 290・291 図)



2 第 46 号住居跡 (1) (第 291・292 図)



1 第46号住居跡(2)(第292图)



2 第46号住居跡(3)(第292・293图)



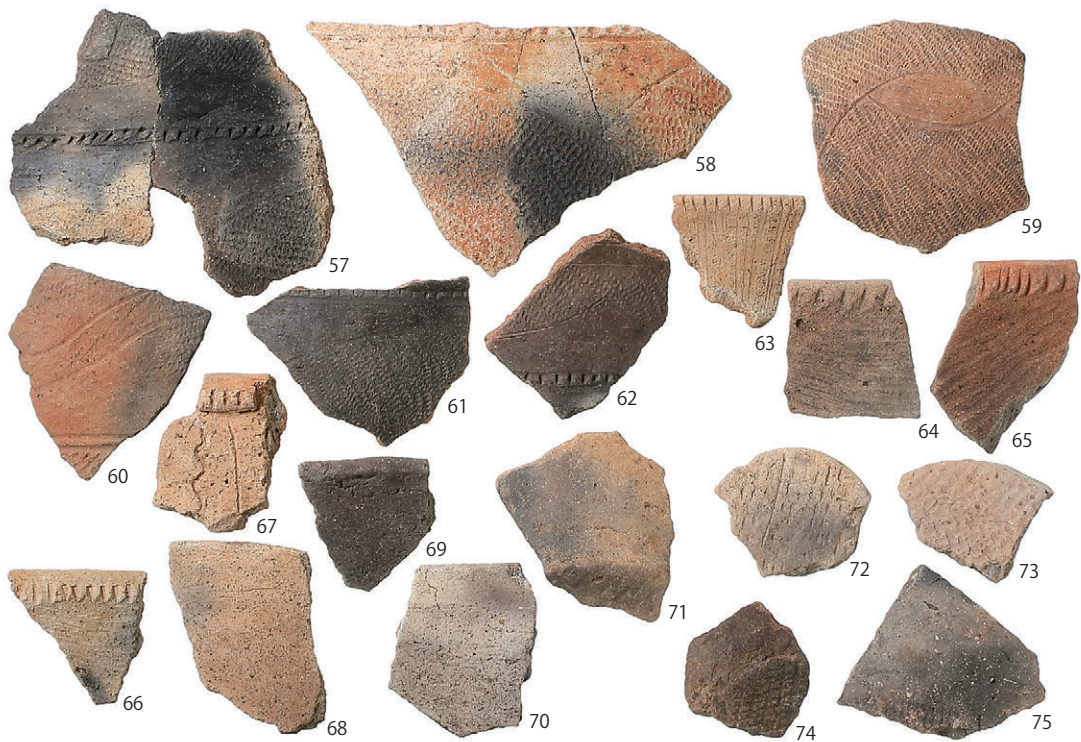
1 第 47 号住居跡 (1) (第 293 図)



2 第 47 号住居跡 (2) (第 293・294 図)



1 第 47 号住居跡 (3) (第 294 图)



2 第 47 号住居跡 (4) (第 294・295 图)



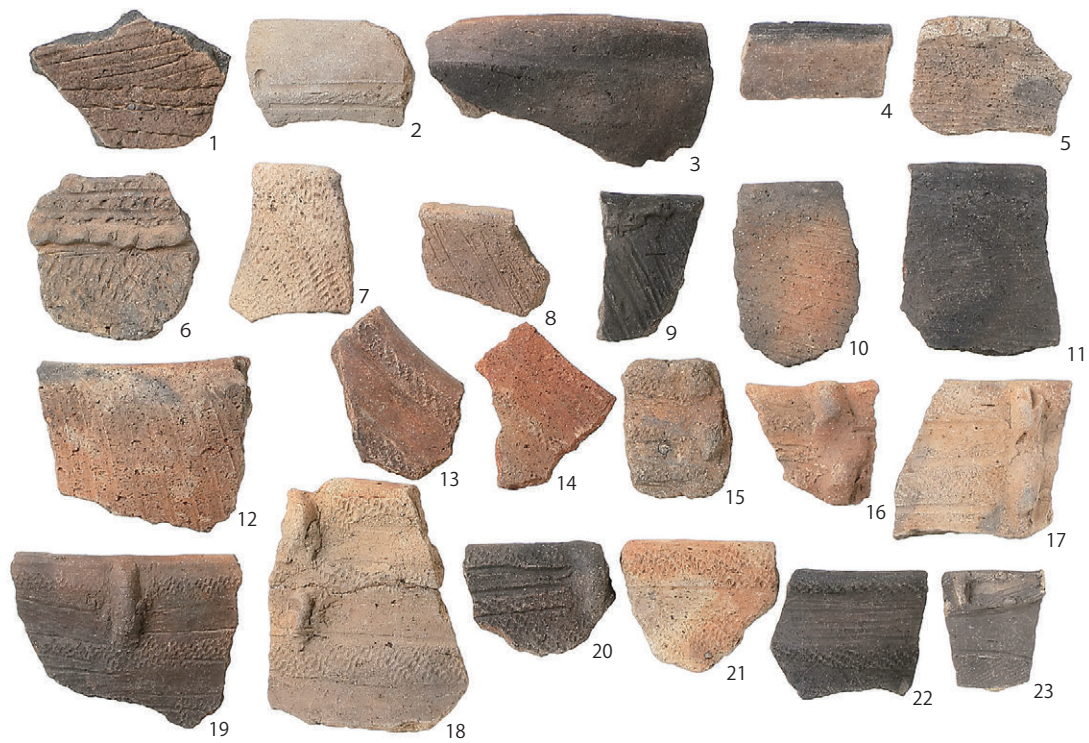
1 第 48 号住居跡 (第 295 図)



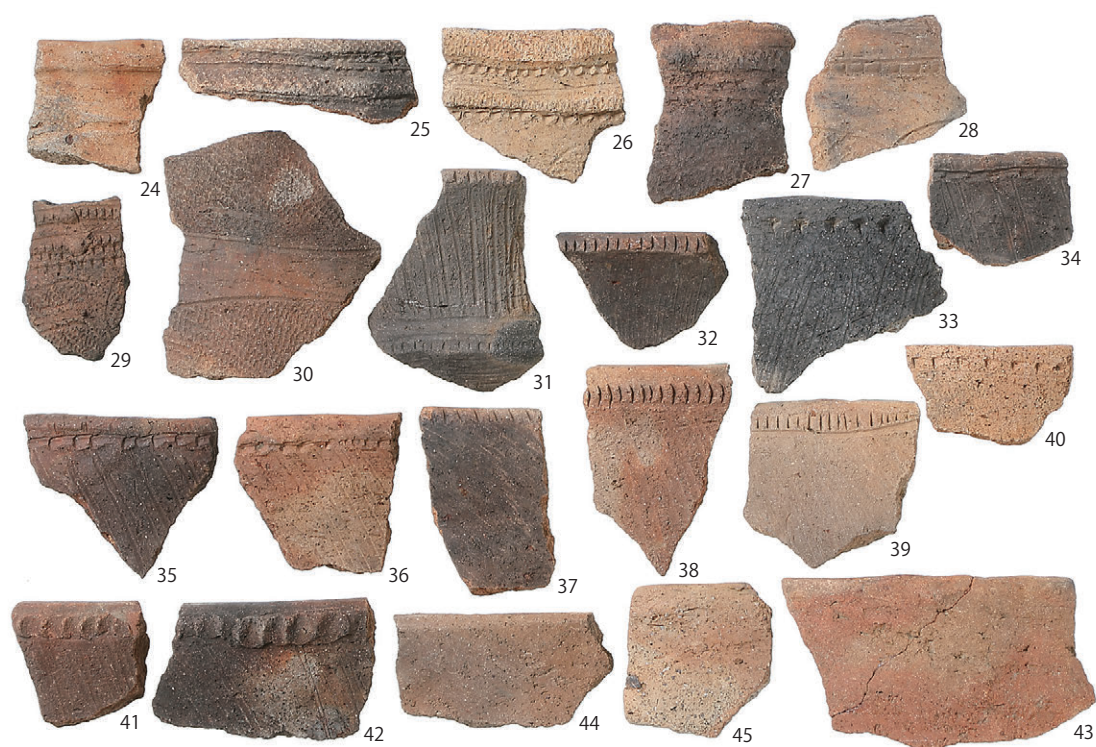
2 第 49・50 号住居跡 (第 295・296 図)



1 第 51・58・60・63 号住居跡 (第 296 ~ 298・300 図)



2 第 55 号住居跡 (1) (第 296・297 図)



1 第 55 号住居跡 (2) (第 297 図)



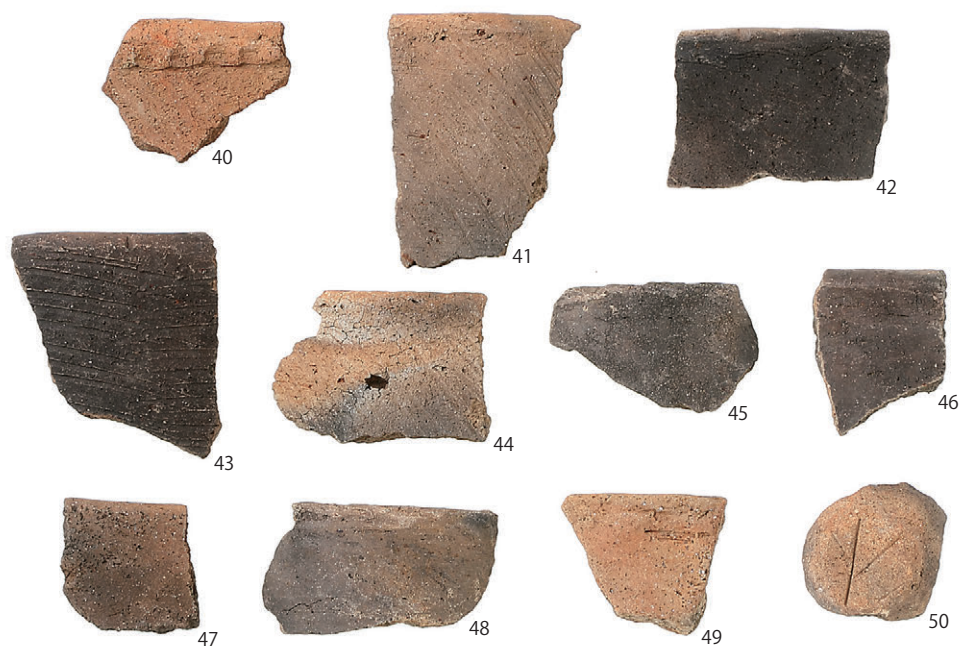
2 第 59 号住居跡 (第 297・298 図)



1 第 61 号住居跡（1）（第 298 図）



2 第 61 号住居跡（2）（第 298・299 図）



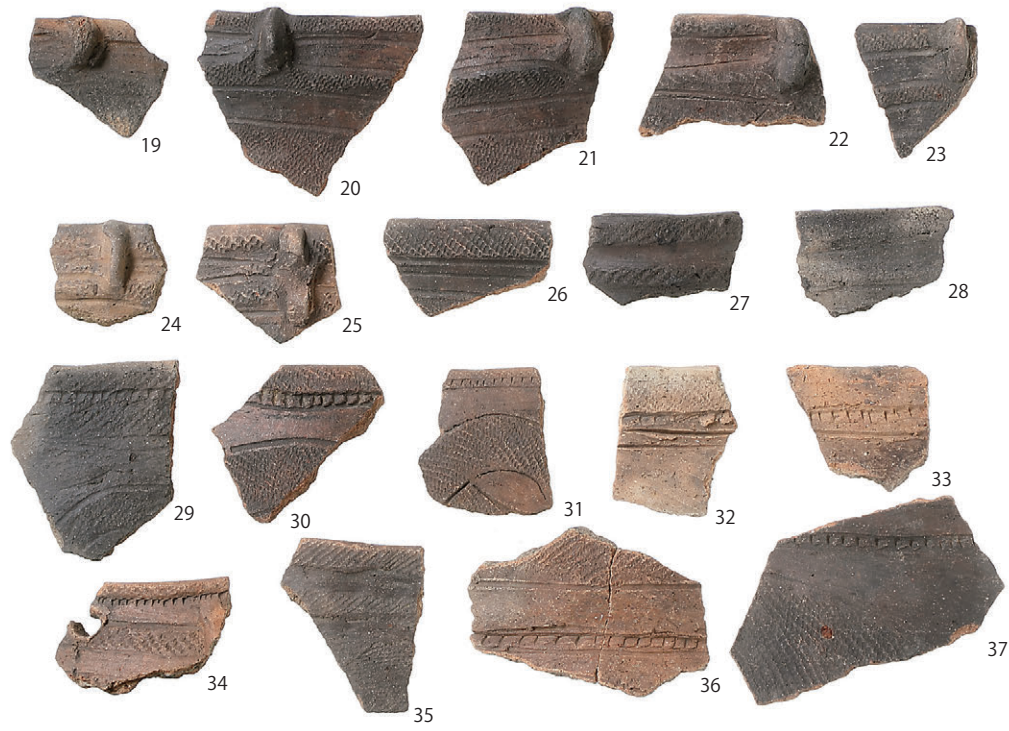
1 第 61 号住居跡 (3) (第 299 図)



2 第 62 号住居跡 (第 299 図)



1 第 64 号住居跡 (1) (第 300 図)



2 第 64 号住居跡 (2) (第 300・301 図)



1 第 64 住居跡 (3)・第 67 号住居跡 (第 301・302 図)



2 第 64 号住居跡焼土上層 (1) (第 301 図)



1 第 64 号住居跡焼土上層 (2) (第 301・302 図)



2 第 65 号住居跡 (第 302 図)



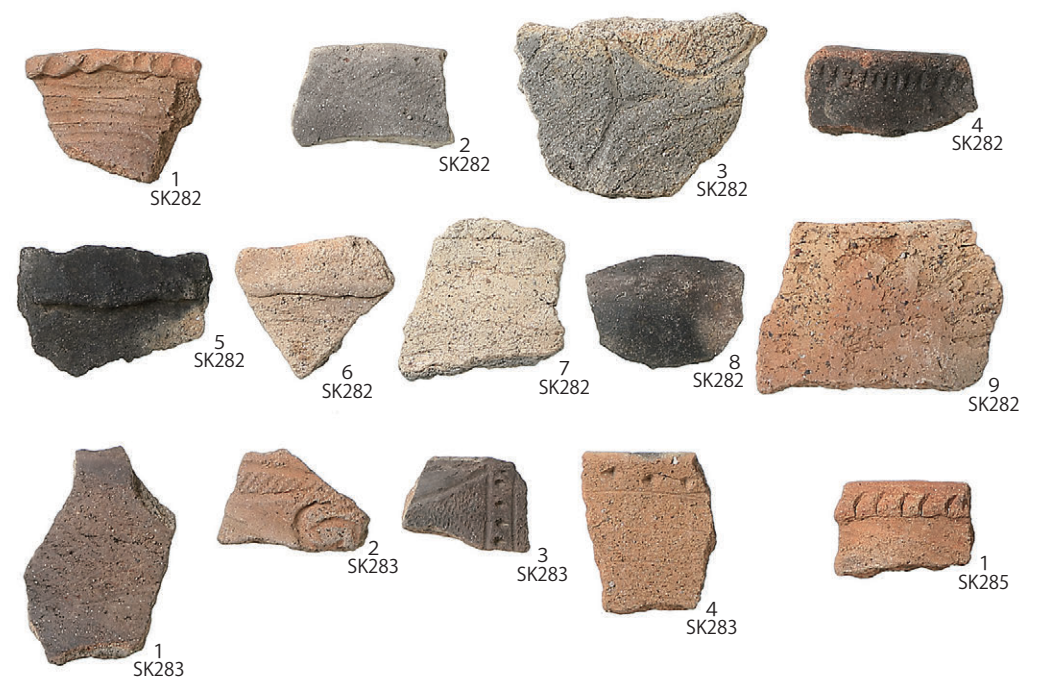
1 第 45・46 号土坑 (第 308 图)、烧土迹 3 (第 327 图)



2 第 47 号土坑 (第 308 图)



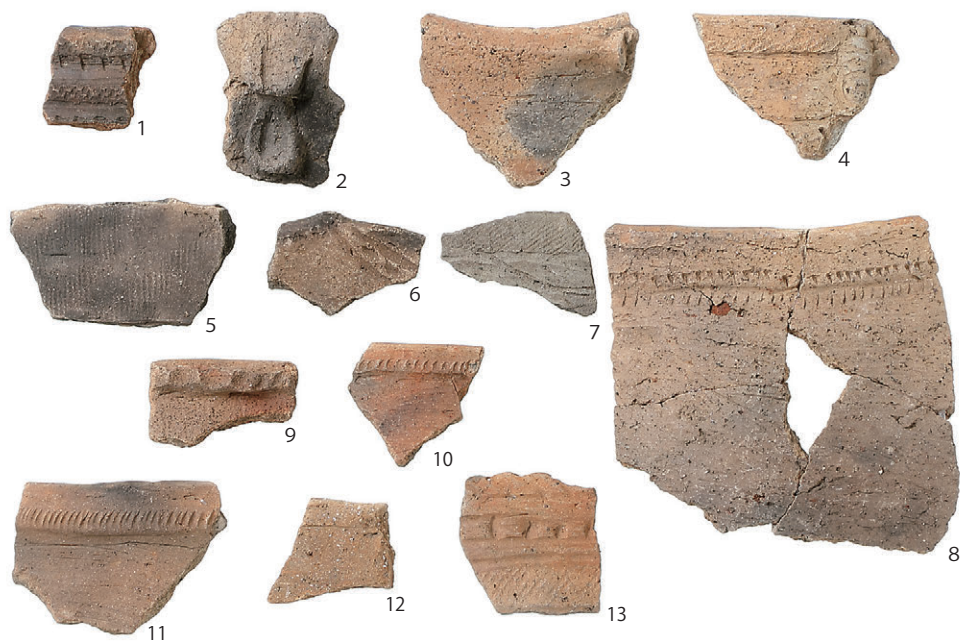
1 第 277 · 280 号土壤 (第 308 · 309 图)



2 第 282 · 283 · 285 号土壤 (第 309 图)



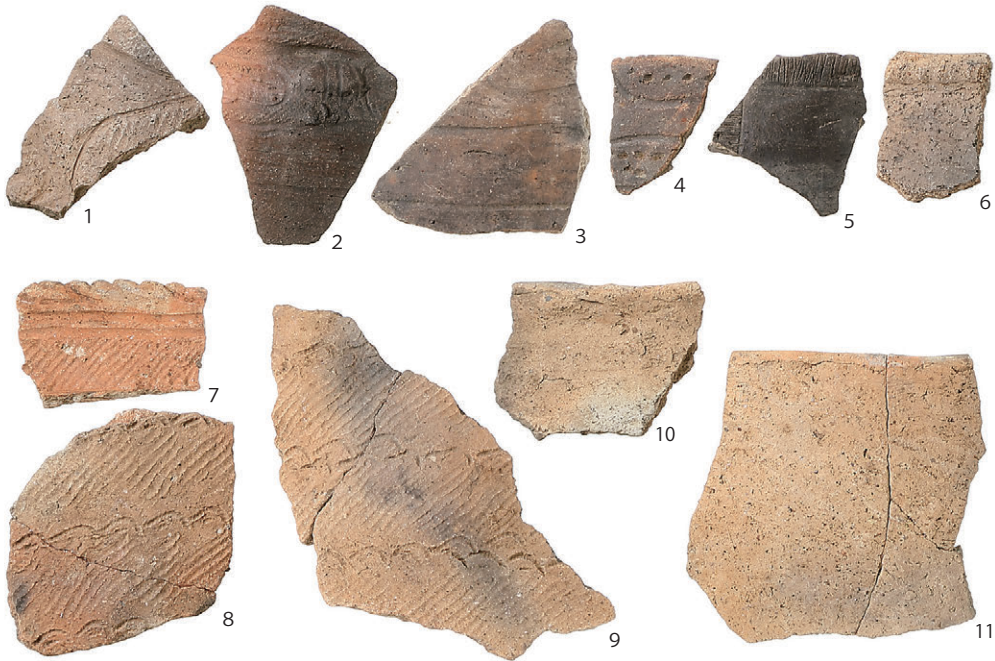
1 第 287 号土壤 (第 309 · 310 图)



2 第 288. 289 号土壤 (第 310 · 311 图)



1 第 288 · 331 号土壤 (第 310 · 314 图)



2 第 289 号土壤 (第 311 图)



1 第 291 ~ 294 · 296 号土壙 (第 311 图)



2 第 297 ~ 301 号土壙 (第 311 · 312 图)



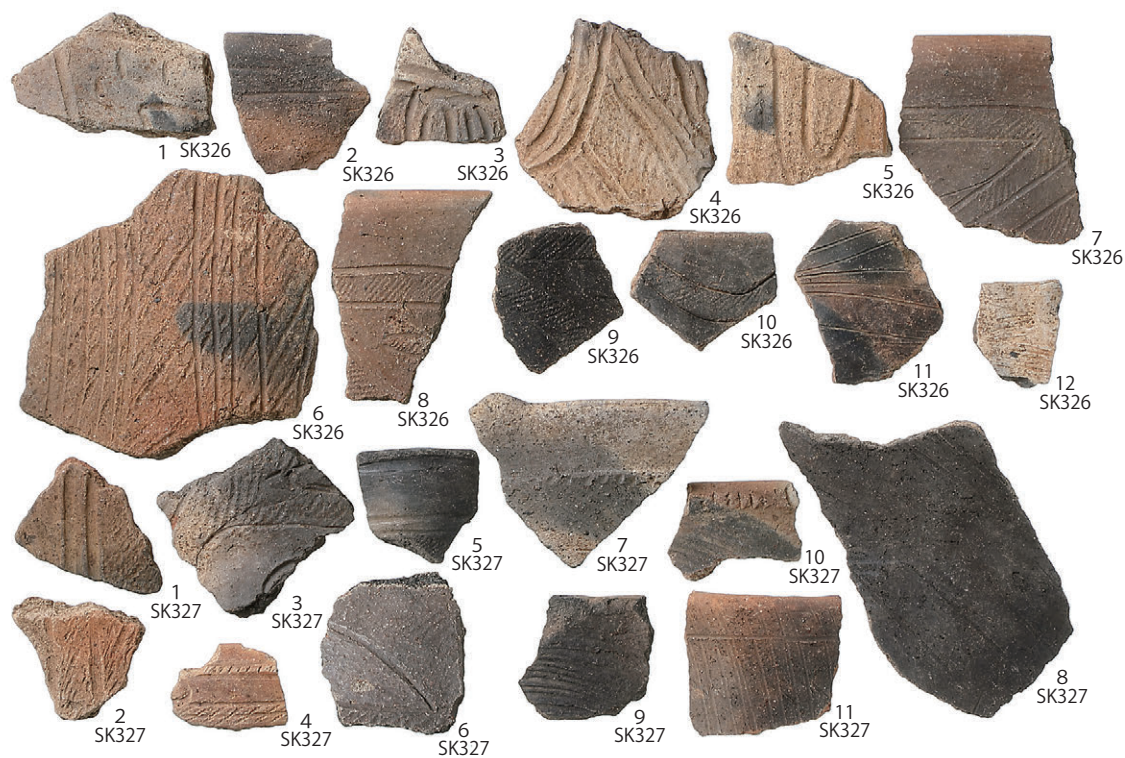
1 第 304 ~ 306 · 308 号土壙 (第 312 图)



2 第 312 · 314 · 315 号土壙 (第 312 · 313 图)



1 第 318・319 号土坑 (第 313 图)



2 第 326・327 号土坑 (第 313・314 图)



1 第 328・329・338 号土坑（第 314 图）



2 遺物集中9・10・12（第 319 图）



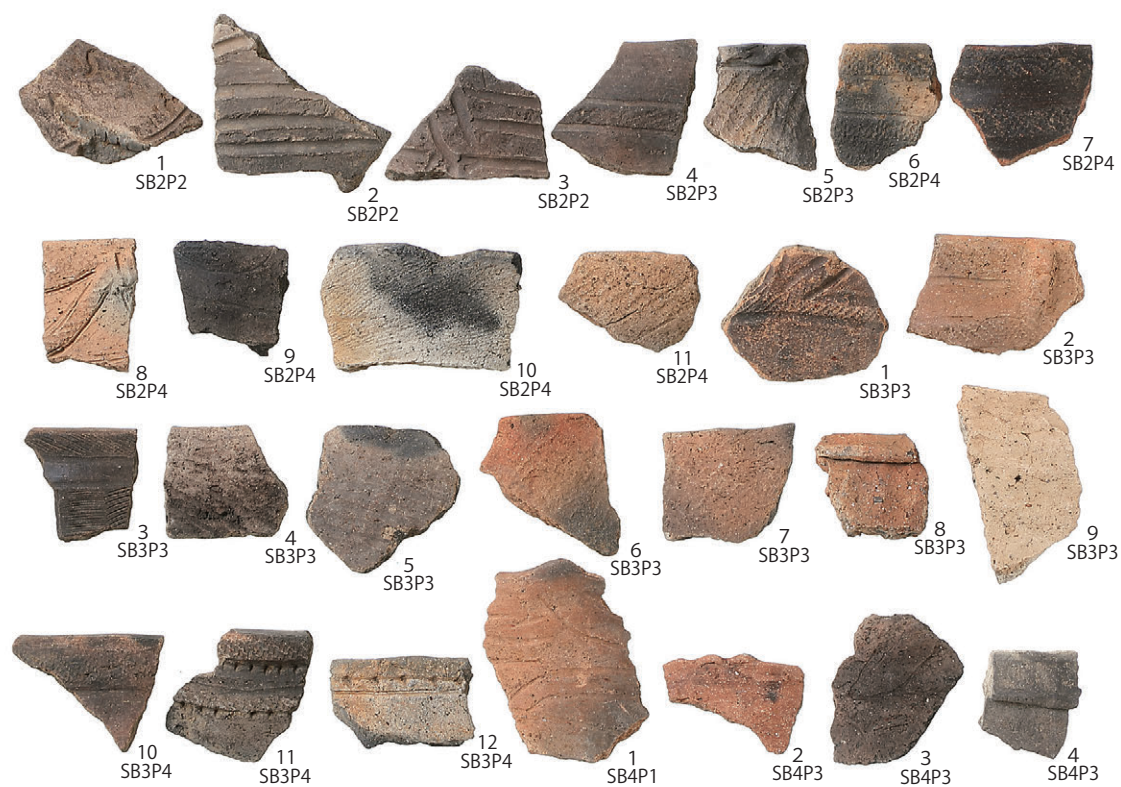
1 遺物集中 12 (第 319・320 図)



2 遺物集中 16・18・19 (第 320 図)



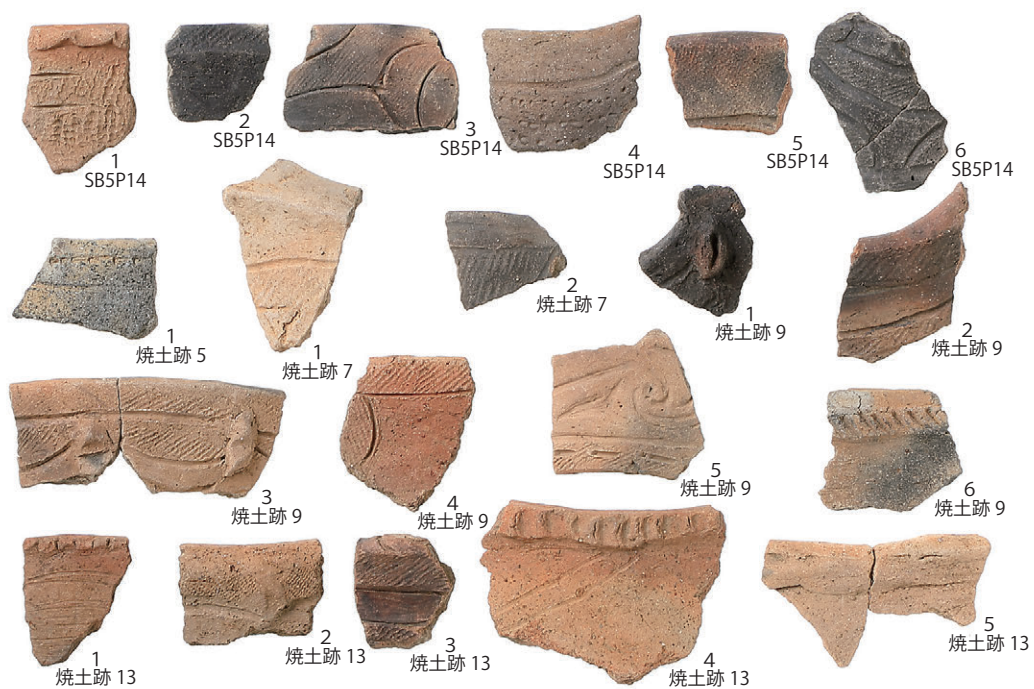
1 第3号埋甕 (第321图)・粘土塊1 (第332图)



2 第2～4号掘立柱建物跡 (第323图)



1 第4号柱穴列 (第324图)



2 第5号柱穴列 (第324图) · 烧土迹 5 · 7 · 9 · 13 (第327图)



1 焼土跡 8・14・15・19 (第 327・328 図)



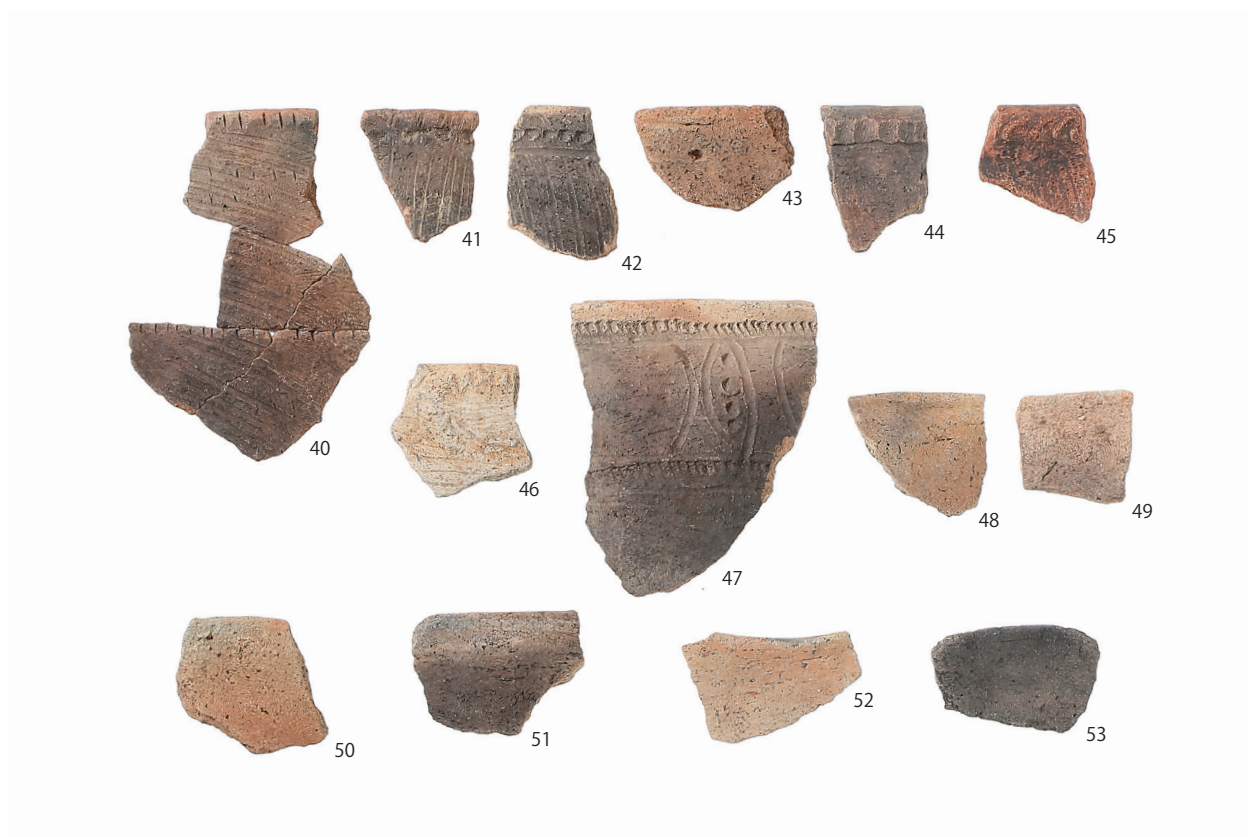
2 焼土跡 20・23～26 (第 328・329 図)



1 烧土迹 27 (1) (第 329 图)



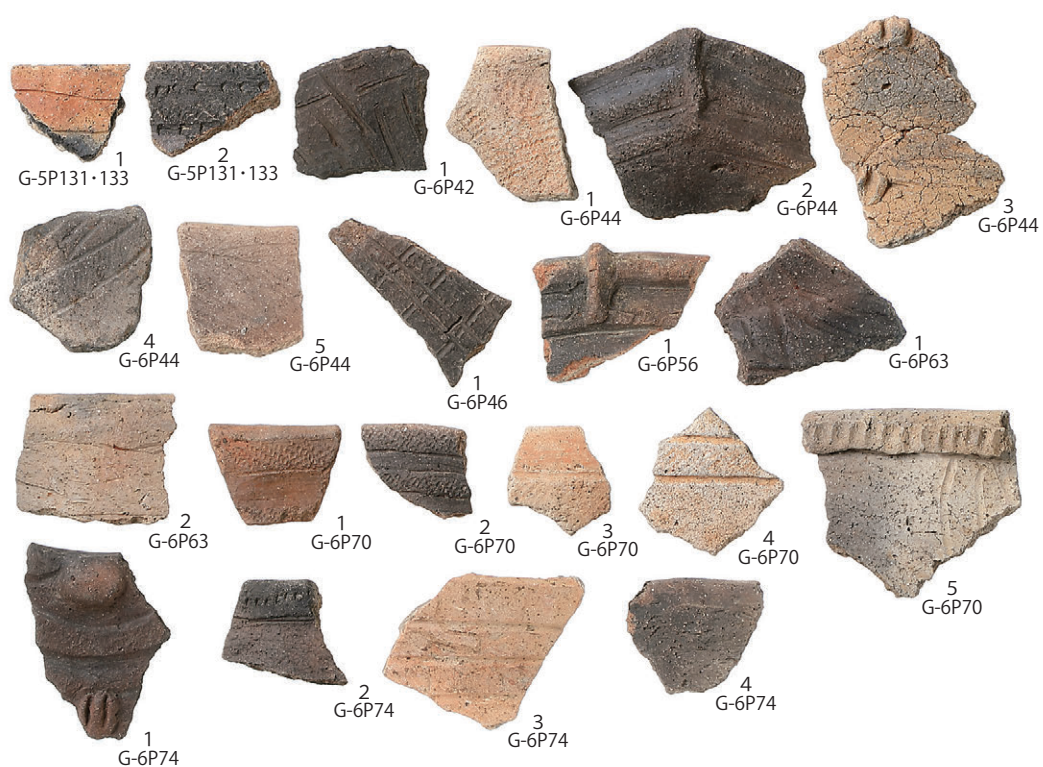
2 烧土迹 27 (2) (第 329・330 图)



1 焼土跡 27 (3) (第 330 図)



2 グリッドピット出土土器 (1) (第 334 図)



1 グリッドピット出土土器 (2) (第 334・335 図)



2 グリッドピット出土土器 (3) (第 335 図)



1 グリッドピット出土土器 (4) (第 335・336 図)



2 グリッドピット出土土器 (5) (第 336 図)



1 第37号住居跡出土土製品 (第360図462)



2 第38号住居跡出土土製品 (第360図464)



3 第40号住居跡出土土製品 (第361図468)



4 第43号住居跡出土土製品 (第362図477)



5 第43号住居跡出土土製品 (第363図483)



6 第43号住居跡出土土製品 (第363図484)



7 第44号住居跡出土土製品 (第364図492)



8 第44号住居跡出土土製品 (第365図499)



9 第46号住居跡出土土製品 (第366図509)



10 第59号住居跡出土土製品 (第366図511)



1 住居跡出土土製品（1）表（第 337 図）



2 住居跡出土土製品（1）裏



1 住居跡出土土製品（2）表（第 338 図）



2 住居跡出土土製品（2）裏



1 住居跡出土土製品（3）表（第 339 図）



2 住居跡出土土製品（3）裏



1 住居跡出土土製品（4）表（第 340 図）



2 住居跡出土土製品（4）裏



1 住居跡出土土製品（5）表（第 341 図）



2 住居跡出土土製品（5）裏



1 住居跡出土土製品 (6) (第 342・343 図)



2 住居跡出土土製品 (7) (第 343・344 図)



1 住居跡出土土製品（8）（第 344・345 図）



2 住居跡出土土製品（9）（第 345・346 図）



1 住居跡出土土製品 (10) (第 346・347 図)



2 住居跡出土土製品 (11) (第 347・348 図)



1 住居跡出土土製品 (12) (第 348・349 図)



2 住居跡出土土製品 (13) (第 350 図)



1 住居跡出土土製品 (14) (第 350・351 図)



2 住居跡出土土製品 (15) (第 351 図)



1 住居跡出土土製品 (16) (第 351・352 図)



2 住居跡出土土製品 (17) (第 352 図)



1 住居跡出土土製品 (18) (第 352・353 図)



2 住居跡出土土製品 (19) (第 353 図)



1 住居跡出土土製品 (20) (第 354 図)



2 住居跡出土土製品 (21) (第 354・355 図)



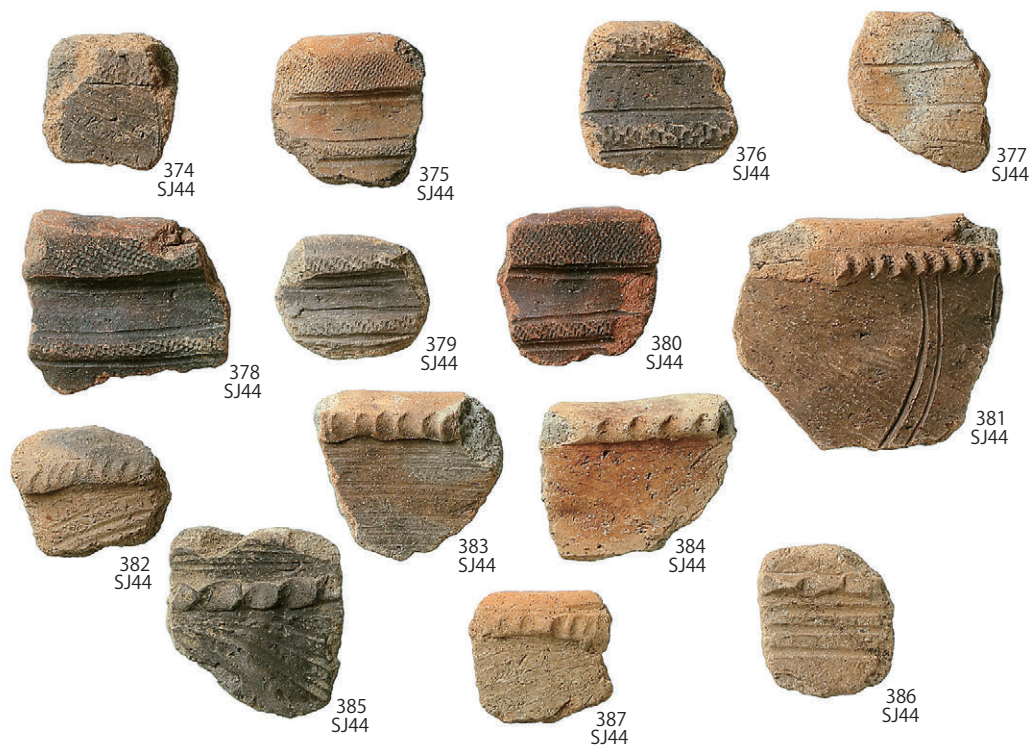
1 住居跡出土土製品 (22) (第 355 図)



2 住居跡出土土製品 (23) (第 355・356 図)



1 住居跡出土土製品 (24) (第 356 図)



2 住居跡出土土製品 (25) (第 356・357 図)



1 住居跡出土土製品 (26) (第 357 図)



2 住居跡出土土製品 (27) (第 357・358 図)



1 住居跡出土土製品 (28) (第 358・359 図)



2 住居跡出土土製品 (29) (第 359 図)



463
SJ37



465
SJ39



466
SJ40



467
SJ40

1 住居跡出土土製品 (30) 表 (第 360・361 図)



463
SJ37



465
SJ39



466
SJ40



467
SJ40

2 住居跡出土土製品 (30) 裏



1 住居跡出土土製品 (31) (第 361 図)



2 住居跡出土土製品 (32) (第 362・363 図)



1 住居跡出土土製品 (33) (第 363 図)



2 住居跡出土土製品 (34) (第 364・365 図)



1 住居跡出土土製品 (35) (第 365・366 図)



2 土壙出土土製品 (第 367 図)



1 遺物集中 12 出土土製品 (第 368 図)



3 第 4 号柱穴列出出土土製品 (第 370 図 1)



2 第 2 号掘立柱建物跡出土土製品 (第 369 図 1)



4 J-7 グリッドピット 36 出土土製品 (第 372 図)



5 焼土跡出土土製品 (第 371 図)



1 遺構出土尖頭器・石鏃・石錐 (第 373 図)



2 遺構出土スクレイパー・二次加工剥片 (第 374・375 図)



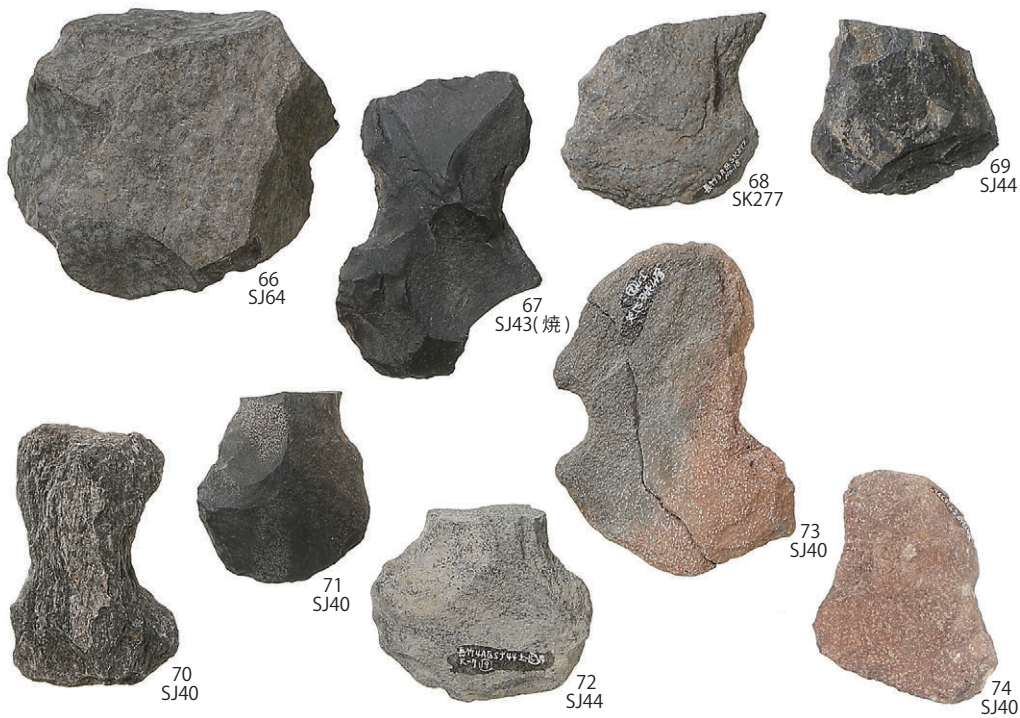
1 遺構出土礫器・打製石斧（1）（第 375・376 図）



2 遺構出土打製石斧（2）（第 376 図）



1 遺構出土打製石斧（3）（第 377 図）



2 遺構出土打製石斧（4）（第 378 図）



1 遺構出土磨製石斧 (第 379・380 図)



2 遺構出土砥石 (1) (第 380・381 図)



1 遺構出土砥石 (2) (第 381 図)



2 遺構出土砥石 (3) (第 382 図)



1 遺構出土砥石（4）（第 383 図）



2 遺構出土敲石（1）（第 384 図）



1 遺構出土敲石 (2) (第 385 図)



2 遺構出土凹石 (1) (第 386 図)



1 遺構出土凹石 (2)・磨石 (1) (第 387 図)



2 遺構出土磨石 (2) (第 388 図)



1 遺構出土磨石 (3) (第 389 図)



2 遺構出土磨石 (4) (第 390 図)



1 遺構出土磨石 (5) (第 391 図)



2 遺構出土スタンプ形石器・石皿 (1) (第 392 図)



1 遺構出土石皿（2）（第 393 図）



2 遺構出土石皿（3）（第 394 図）



1 遺構出土石皿（4）（第 395 図）



2 第 40 号住居跡出土石皿（5）（第 395 図 250）



1 遺構出土石皿（6）（第 396 図）



2 遺構出土石皿（7）（第 397 図）



1 遺物集中 12 出土石皿（8）（第 397 図 262）



264
SJ40



265
SJ40

2 遺構出土台石（第 398 図）



1 遺構出土軽石類 (第 399 図)



2 遺構出土石錘 (第 400 図)



1 遺構出土石棒 (1) (第 400・401 図)



2 遺構出土石棒 (2)・石剣 (1) (第 400・401 図)



1 遺構出土石剣（2）（第 402 図）



2 遺構出土石剣（3）（第 402 図）



1 遺構出土独鈷石・石冠・岩版（第 403・404 図）



2 遺構出土垂飾品（第 404 図）



1 遺構出土骨製品 (第 405・406 図)

報告書抄録

ふりがな	ながたけいせき							
書名	長竹遺跡Ⅱ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第440集							
編著者名	吉田 稔 渡辺清志							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2018（平成30）年3月22日							
所収遺跡	ふりがな所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ながたけいせき 長竹遺跡 (第1・3・4次)	さいたまけんかぞしおお 埼玉県加須市大 あざおおこえあざひのくち 字大越字樋ノ口 620-1・702-1 ほか 他	11210	039	36°11'13"	139°36'50"	20101201～ 20110331 20120406～ 20130331 20130401～ 20131031	3,321	堤防建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長竹遺跡 (第1・3・4次)	集落跡	縄文時代	住居跡 掘立柱建物跡 土壇 柱穴列 埋甕 焼土跡 粘土塊 ピット 遺物集中	29軒 3棟 68基 3基 3基 25基 3箇所 1293基 6箇所	土器 土製品 石器 石製品 骨製品		縄文時代後・晩期に形成された環状盛土南側を調査した。盛土遺構の遺存状況は極めて良好であった。盛土の径は190mに及び、関東地方有数の規模である。第43号住居跡は一辺12mの「大形竪穴建物址」で床面が焼土で覆われていた。また多くの祭祀遺物が出土した。	
要約								
長竹遺跡は利根川沿いの埋没台地上に立地し、縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。本書では縄文時代(第二期)後期から晩期にかけて形成された環状盛土遺構の南側から検出された遺構・遺物に関する報告書である。 盛土外径は想定190mにおよび、環の内側から外側に向かって形成されていた。環の内側の窪地は基盤土壌のローム層が削平されたような状況であった。後期前葉から晩期中葉にかけての遺構は、盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。住居跡のうち、開始期にあたる後期前葉では環のやや内側から1軒のみ検出され、後期中葉から後葉にかけては環の外側に拡張し、軒数も増加していた。各住居跡は、同一地点内での拡張建て替えが頻繁に行われ、床面のかさ上げも行われていた。 最大規模を誇る一辺12m級の第43号住居跡は、後期後葉から晩期初頭まで継続して営まれた長期継続型の所謂「大形竪穴建物址」であった。最低2回の拡張建て替えを行っていた。最終段階では複数の炉跡が備えられ、床面が焼土で覆われていた。また、遺物は一般の住居跡とは異なり、装飾品や祭祀用具、狩猟用具等が主に壁寄りから出土した。 晩期に入ると規模が小形化し、軒数も減少していた。住居跡のプランは、後期前葉の円形から後期中葉の「D」字型へ変化し、さらに後期後葉前半の隅円方形、後葉後半から晩期前葉までの方形へ変化するなかで、晩期ではプランが崩れ、不整形で柱穴や入り口部の配置も規則的配置とならない住居跡が検出された。晩期中葉に入ると住居跡は検出されず、環の内側から検出された掘立柱建物跡や、円形柱穴列等が当該期の遺構として検出された。また、内縁側傾斜面から、多数の小形ピットが晩期包含層から掘り込まれて検出された。 土壇は住居跡が密集する地域よりやや環の内側から検出され、袋状で貯蔵穴が想定される土壇も検出された。また、土壇墓が3基検出された。北盛土で検出された土壇墓群の延長線上に位置していた。第277号土壇は長方形で壮年女性の全身骨格が仰臥伸展葬で検出された。頭位左上からは、晩期の注口土器が完形で置かれていた。 遺物は、縄文時代早期から晩期中葉にかけての膨大な量が出土し、祭祀遺物、狩猟用具、加工具、装身具、日用雑器等に至るまで幅広く出土した。								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第440集

長 竹 遺 跡 II

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第3分冊)

平成30年3月14日 印刷

平成30年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／巧和工芸印刷株式会社